

バイオマス利活用目標

(バイオマスタウン構想書からコピー)

(1) 利活用目標

① 廃棄物系バイオマスの利用率 現状98%⇒目標98%

家畜排せつ物の更なる利活用、下水汚泥・製材残材等の電気エネルギー利用、生ごみの堆肥・飼料化、廃食用油のBDF化等により一層の高度・有効利用を行い廃棄物系バイオマスの98%の利活用を行います。

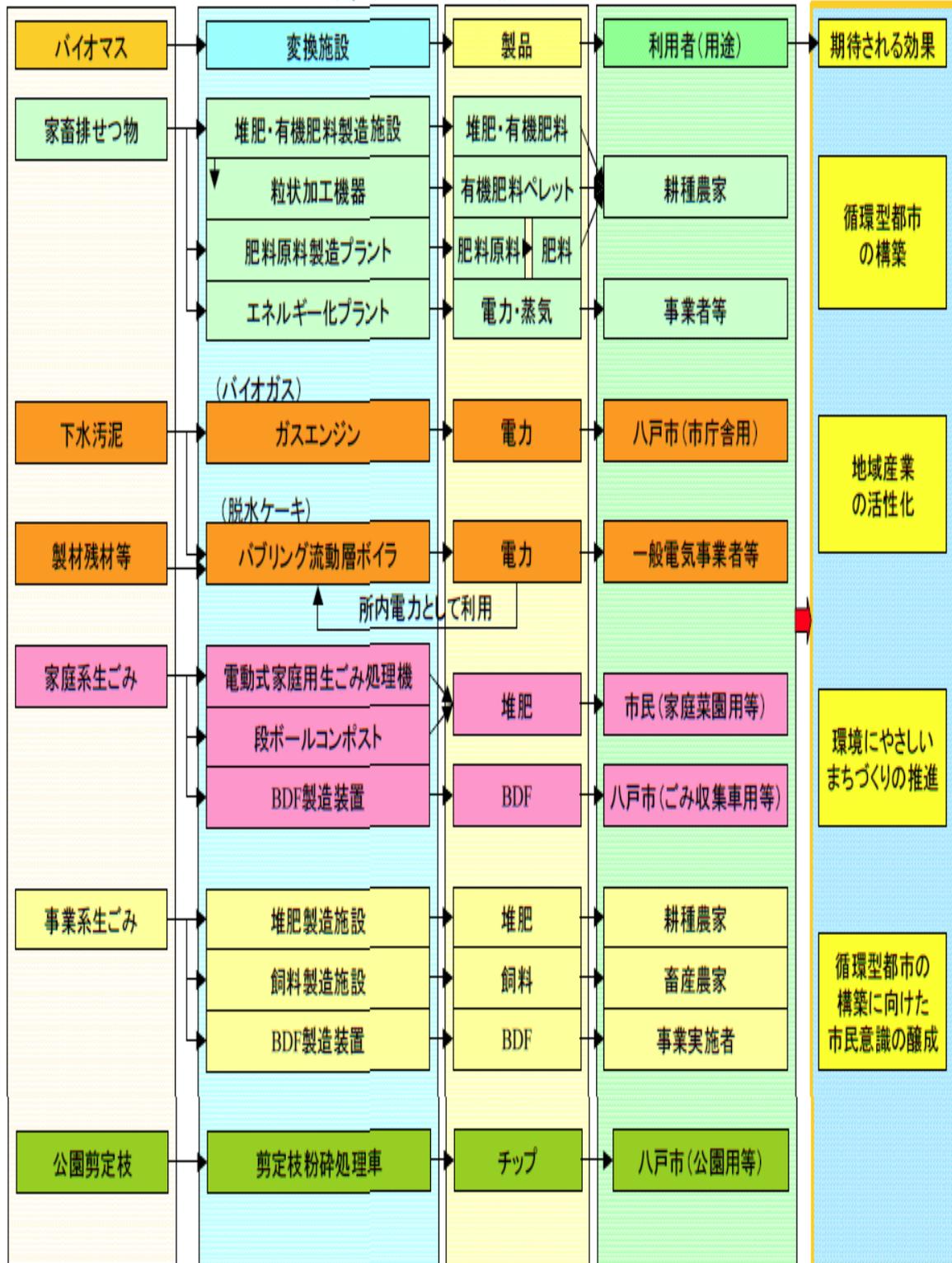
② 未利用バイオマスの利用率 現状66%⇒目標71%

公園剪定枝のチップ利用等により未利用バイオマスの71%の利活用を目指します。

バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)

八戸市バイオマスタウン構想全体フロー図



実現した事業(その1)

事業の名称	食品残さい肥化事業
事業者名	佐々木総業(株)
事業所名	食品リサイクル工場
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入) 添付農林水産省作成資料「バイオマス利活用の取組事例」参照。

イ 青森県八戸市

都道府県名	青森県	市町村名	八戸市
市町村人口	24万3682人	市町村面積	305.19 km ²
主要施設の名称	食品リサイクル工場	実施主体名	佐々木総業㈱
原材料 (利用量 賦存量)	食品加工残さ 賦存量：9,957 t/年（平成19年度実績値）		
変換技術(生産量)	たい肥 生産量：8 t/月（メーカー試算）		
取組の目的／背景	・八戸市内における食品小売業、外食産業等が処理に困っている食品残さを適正に処理する。処理に当たっては排出元に還流するようなリサイクルを目指し、リサイクル・ループを構築する。		
取り組むきっかけとなった課題	・食品小売業や外食産業事業者が生ごみ処理に困っている現状の中、「食品リサイクル法」改正に伴い本格的に食品リサイクルが推進されていくことを知り、同時に青森市の㈱グリーン・アースが開発した有機資源再生処理装置「ORRD」が食品残さを適正に処理できることを知ったことによる。		
実績 (計画段階のものは計画値を記入)	<p>・スーパーマーケットである「ユニバース」(八戸市内5店舗(平成21年2月現在))から出る食品残さを、「佐々木総業」の食品リサイクル工場にてたい肥へとリサイクル。生成されたたい肥は八戸市内の「山内農場」にてゴボウや長芋の生産に活用し、「ユニバース」各店舗はこれを販売する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>食品リサイクル・ループ</p> </div>		
事業を進める上での課題	・「ORRD」での適正処理に適した形で排出元から分別等の協力を頂かなければならないことと、生成されるたい肥の異物混入をどのようにして防止するのが大きな課題。それに伴う収集・運搬方法も検討事項。		
維持管理体	・たい肥は、1～3ヶ月でたい肥化		

<p>制 (維持管理 費の実績)</p>	<p>[施設の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設：有機資源再生処理装置・ORRD 二基、電動クレーン、たい肥ストックヤード、トラックスケール 処理能力：最大 1,600kg/日 (各基 800kg/日) 内容：食品残さを安全無害に再生処理し、生成物をたい肥として再利用 	
<p>直面した課題を解決した工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 排出者と共に協議を重ね、食品残さのみポリ袋にまとめた状態で排出して頂くことや、ORRDでの処理に不向きなものは取り扱わないことを決めた。 収集・運搬方法については、食品リサイクル工場内にて手選別による異物除去等の分別確認作業等が必要なことから、トラックにて行うこととした。 	
<p>取組により得られた効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ユニバース」八戸市内5店舗から出る食品残さをたい肥化し、そのたい肥を使って野菜を栽培することで、食品残さの循環資源としてのリサイクル・ループ完結を実現した。こうした取組が、改正食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画」として認定された。 	
<p>課題/展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> 難しいといわれる食品残さの再生利用に成功したことで、関係者から関心が寄せられているが、現在の施設規模では現状以上の事業展開は困難である。今後、食品残さのみならずバイオマスの再生利用は、社会的要請が高くなるものと見込まれるため、環境事業者として、そうしたニーズに応えられるような事業展開をして参りたいと考えている。 	
<p>その他</p>		
<p>連絡先</p>	<p>電話番号：0178-28-2833</p>	<p>FAX 番号：0178-28-5505</p>
	<p>所属部署：佐々木総業（株）食品リサイクル部</p>	<p>e-mail：</p>



食品リサイクル工場内